

令和5年度 厚生労働科学行政推進調査事業費（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

国連国際障害統計に関するワシントン・グループ
第23回年次会合の概要

分担研究者 岩谷 力 長野保健医療大学
研究協力者 北村 弥生 長野保健医療大学

研究要旨 本稿では、国際連合（以下、国連）の国際障害統計に関するワシントン・グループ（以下、WG）の第23回年次会合の概要を紹介する。報告の概要は下の6点であった。①すでに完成した5つの指標の普及状況（短い質問セット・短い質問セット強化版・拡張質問セット・子ども用モジュール・労働力モジュール）、②子ども用モジュール教師版 CFM TVの進捗状況、③インクルーシブ教育モジュールの認知調査の結果に関する報告、④心理社会機能モジュールの作成の進捗状況、⑤国別障害者報告 Country Disability Report 様式の提案、⑥年齢構成の異なる国の間での比較を可能にするため年齢調整方法の報告。また、2025年4月2～3日にベルリン（ドイツ）で開催される Global Disability Summit で障害者統計が取り上げられるため、国別障害者報告の作成の協力依頼があった。環境と参加モジュールについての報告はなかったがワーキング・グループは継続していることが報告された。

本稿では、国連国際障害統計のワシントン・グループ（以下、WG）に関して、若干の背景に加えて、第23回年次会合（2023年10月31日～2日、日本時間では30日～1日）の概要を紹介する。第22回以降は、スライド資料が公表されていないため、事務局から入手した字幕情報による概要の報告とした。WGの発足から第22回年次会合（2022）までの成果は別稿を参照されたい^{1), 2), 3)}。

A. これまでの成果と発展

1990年に発行された障害者統計便覧（Disability Statistics Compendium）で55か国の障害者統計を比較した際に、障害者

の人口に対する比率（障害発生率：disability prevalence）に差が大きかったことは、国際的に比較可能な障害の基準作りの必要性が示された根拠としてしばしば引用される。

そこで、国連統計委員会より障害発生率を国際比較するための指標作成を使命として、WGが設立された。WGがこれまでに完成した5つの指標を表1に示した。これらについては、普及のための文書・教材及び翻訳の作成が継続され、国連の公用語6種類（アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語）とポルトガル語（ポルトガル版、ブラジル版）、ベトナム語について主な指標がHPから公開され、翻訳のガイド

ラインも公表された。また、国あるいは国際組織・国レベルの組織を対象にした技術研修が提供されている。それぞれの指標の活用は進んでおり、WG-SS の使用国は、2020 年 85、2021 年 111、2022 年 117、2023 年 123 と報告された。

表1 ワシントン・グループで開発した指標

名称、完成年	備考
WG-SS ⁴⁾ 2006	国勢調査 全国レベルの健康・福祉・労働関係の調査
WG-ES	大規模で詳細な調査
WG/UNICEF-CFM 2016	2～4 歳用 5～17 歳用
WG-SS Enhanced 2010～2019	WG-SS に社会心理的機能・上肢機能を追加
WG/ILO LFS-DM 2020	労働環境

当初より、WG の指標は国勢調査で使用することを目標としていた ⁴⁾。しかし、すでに国勢調査の歴史が長い国では、設問の追加は 1 項目でも難しいことは共通しており、WG-SS 6 項目の追加は困難を極めている。そこで、全国的な保健及び雇用調査での活用が次善策とされた。一方、国勢調査の整備が遅れている国については、WG 事務局は国勢調査の実施の支援をしながら、WG の指標の活用を啓発している。

第 22 回年次会合では、参加国の要請に応じ、また、後述する Zoom での投票の結果、障害者だけを対象にした全国規模の調査に関する interest group が組織された。会合の前に各国に提出が依頼されるカントリー・レポートでは、「障害者だけを対象にし

た全国調査の実施状況」が追加で調査され、提出 64 か国中 18 か国が実施していることが報告された。日本では、生活のしづらさなどに関する調査(厚労省)がこれにあたる。

B. 検討中の指標

WG 事務局である米国疾病予防管理センター Centers for Disease Control and Prevention(CDC)、協力国、研究者により、現在、開発が進められている指標を表 2 に示した。第 23 回年次会合で発表された進捗状況を次に紹介する。

表2 WG で開発中の指標

名称	仮訳
WG/UNICEF-CFM 教師版	子どもの生活機能の指標 (教師版)
WG-UNICEF Inclusive Education Module	インクルーシブ教育環境の 指標
WG Mental Health and Psychosocial Functioning Module	精神的な健康及び心理社会 機能モジュール
Environment and Participation	環境と参加モジュール

1. 子どもの機能モジュール教師版

WG/UNICEF CFM TV (Child Functioning Module Teacher Version)

子どもの機能モジュール CFM は母親または養育者が回答することを前提としたが、学齢期(小学校から高等学校)の子ども(5-17 歳)については教師が回答する「子どもの機能モジュール教師版」WG/UNICEF CFM TV (Child Functioning Module Teacher Version)も 12 領域 20 問で 1 ページに収まるように作成中であることは第 20 回年次会合で報告された。

教師版への関心は高く、第20回年次大会後に interest group が組織され、その年度内に2回の会合が行われた。シエラレオネ、インド（ボンベイ）、韓国、ネパール、マラウイ、コソボ等が参加した。第23回年次大会では、CFM TV のガイダンス文書を interest group と WG 運営委員会での精査を経て、WG の HP に掲載することは2024年3月に延期されることが報告された。また、4組織からの発表があった。

(1) 母親と教師の回答の違い

母親/養育者と教師の間で、同じ子どもについて障害の有無の回答に差があるかを調査した結果では、「全くできない」と「かなりできない」を合わせた判断では、12項目と全体について一致率は89.2%(全体)から99.5%(視覚)と高かった。しかし、各選択肢の比率には差があり、非一致率は5.1%(聴覚、歩行)からコミュニケーション(72.0%)の幅があった。

(2) 人道支援現場での活用

難民キャンプでは、公的機関が提供する障害者サービスの対象者としての障害に関する定義はない。そこで、WGによる指標は要支援者を簡便に判定し、支援を提供する指標として有効であることは、すでに報告されている⁵⁾。

第23回年次会合では、前回に続き、Education Cannot Wait の資金援助を得て、Humanity and Inclusion がウガンダにおける人道支援でCFM TV を活用した結果から、①記憶の項目は設問の意図が誤解されやすいこと、②教師は担当してから1か月後には安定した判断をできることが示された。

(3) 異なる教師間の回答の差

ソマリアにおける研究では、Norway Agency for Development Cooperation (NORAD) が資金援助し、Save the Children の事業として、学校において異なる教師が同一の子どもを同じように評価するかを調査した(2019-2023)。障害とインクルーシブ教育に関する2日間の研修を受けた後では、教師による一致率は89%(不安)~96%(行動のコントロール)であった。また、研修により、教師には障害に対する関心が喚起された他、判断するのに4-6か月の期間が希望された。

(4) CFM TV と他の指標との差

SightSavers がシエラレオネの学校で行った調査は前年に続いて発表され、「不安」、「うつ」、「記憶」の判定は最も難しく、「行動の制御」と「変化への許容」の判定にも課題があることが示された。また、国勢調査での障害発生率と比べてCFM TV は聴覚障害と移動障害を少なく判定し、学習障害と言語障害を多く判定することが示された。

2. インクルーシブ教育モジュール

WG/UNICEF Inclusive Education Module

教育環境の指標となるインクルーシブ教育モジュールの開発も UNICEF と共同で、10年来続けており、2024年中にはモジュールと記入ガイドラインが作成できる見込みと報告された。

就学児については、設問の候補になっている領域は、態度 (Attitudes) 2 問、アクセシビリティ (Accessibility) 2 問、費用負担 (Affordability) 3 問であることは、第22回次会合で紹介された。この

指標については、すでに6か国（ジャマイカ、インド、カンボジア、カザフスタン、米国、ブラジル）で認知調査(cognitive testing、少数例の質的調査)が、3か国（アゼルバイジャン、マラウイ、コンゴ）でフィールド調査（量的調査）が行われた。態度については、回答者の考えと回答が一致しないために指標から外す方針が報告された。

非就学児については、①就学したことがない、②今、就学していない、③半分以上登校していない、④不登校は半分未満、⑤登校しているが進級見込みがない、の5群に分けられ、はじめの3群を対象に「不登校の理由に関する4つのmodule」を考案したことが紹介された。

表3 非就学児に関する設問案

モジュール	質問数	内容
1	14	就学、学校種別
		就学したことがない、進級したか、卒業したか、現在登校しているか、留年、訪問教育、学校種別（普通学校、特別支援学校）、学級種別（通常/特別支援学級）欠席日数、進級への期待
2	20	学校の環境
		修学支援、教職員からの支援、教材、教室環境（照明、温度、机、騒音）、トイレ・娯楽環境、安全性、学校による課題への対策、生徒の学習ニーズに学校が対応できるか、生徒の学習ニーズに教員が対応できるか
3	13	就学しない理由
		拒否、学校の状況、移動手段、安全性、アクセシビリティ、補装具不足、介助不足、生徒の学習ニーズに教員が対応できない、教師による不公平な対応
4		登校を阻む要因

3. メンタルヘルスと心理社会モジュール

WG Mental Health and Psychosocial Functioning Module

(1)指標作成の経過

WG-SS は精神障害と知的障害の捕捉が悪いことから、2013年ヨルダンでの年次会合で、心理社会モジュールのワーキング・グループは組織された。WG-SS Expanded では、「うつ」と「不安」の頻度と程度を追加したが、それでも漏れる者があるからである。

はじめは、Mental Health ワーキング・グループであったが、途中で、「Mental Health は機能ではない」という指摘があり心理社会機能ワーキング・グループに名称が変わった。しかし、まもなく、Mental Health and Psychosocial Functioning Module と変更された。

文献調査により、以下の8項目を条件として、指標の候補となる質問が検討された。①対人関係と行動・感情の制御に関する設問を入れる、②平易な用語、③WGの指標の他の質問と構造が似ている、④自記式回答と代理回答に差がない、⑤成人対象、⑥環境に関係しない、⑦文化に配慮する、⑧翻訳で意味が変わらない。

認知調査は、2019年に南アフリカで（精神障害者21名、非精神障害者15名；英語）、2022年にコスタリカで（精神障害者8名、非精神障害者15名；スペイン語）行われた。他に、ジャマイカ、インド、コロンビア、カザフスタン、米国、モザンビークなどが協力している。第23回年次会合では、ケニア（精神障害者21名、非精神障害者6名；スワヒリ語と英語）、ハンガリー（精神障害者12名、非精神障害者8名；英語ハンガリー語）で調査が行われた。

試行調査の後、用語、質問の順序、調査員の研修について検討が行われ、結果の精査が予定されている。さらに、他の国での

試行調査への参加も呼びかけられた。

(2) ハンガリーでの調査項目

ハンガリーの調査は、約 25-40 分の面接調査で、属性（年齢、性、職業、教育、精神そのほかの状態）のほかに、WHO-DAS 2.0(WHO Disability Assessment Schedule) を活用した 4 問、フランスの全国調査(Disabilities and health survey, 2008) から修正した 1 問に、研究(Tenorio-Martínez et al 2009) から修正した 2 問が使用されたことが第 23 回年次会で報告された。

表4 「メンタルヘルスと心理社会モジュール」のハンガリーでの使用項目

Do you have difficulty getting along with people who are close to you? あなたは近しい人とうまくやっていくのが難しいですか？
Do you have difficulty dealing with people you do not know? あなたは、知らない人と関わるのが難しいですか？
Do you have difficulty making new friends? あなたは、新しく友たちを作るのが難しいですか？
Do you have difficulty maintain friendships? あなたは、友達関係を続けるのが難しいですか？
In everyday life, do you have difficulty forming relationships with other people? 日常生活で、あなたは、他の人と関係性をもつのが難しいですか？
Do you have difficulty controlling your emotions when you are around people? あなたは、他の人に関して感情を制御するのが難しいですか？
Do you have difficulty controlling your behaviour when you are around people? あなたは、他の人に関して行動を制御するのが難しいですか？

(3) 投票機能の活用

心理社会モジュールの発表中に行われた投票は以下の 4 項目であった。第一項目のみ結果を示す。結果は実数でなく%で示されるため、無回答数はわからないことに注

意が必要である。過去には、提案した課題についての賛否が問われた場合に、無回答により提案事態への反対意思を伝えることがあったからである。

- ① 全国規模の調査で、あなたの組織は心理社会機能に関する設問を取り入れる計画はあるか？（はい 45%、いいえ 31%、わからない 24%）
- ② あなたの組織は、今回提案された心理社会モジュールの質問の一部を全国調査で使うことはできるか？フィールド調査に協力できるか？
- ③ あなたの組織は、心理社会機能についての認知調査を行うことに関心があるか？
- ④ 認知調査に参加するかどうかに影響する課題は何か？
(翻訳、資金、時間、対象者のリクルート)

C. その他の話題

1. 国別障害者報告 Country Disability Report

「WG-SS 等の指標を使った障害発生率」と「障害の有無による生活状況の違い」を公表するための標準様式を作成することは 2019 年に合意され、2020 年に初めて、ケニアと米国のデータを用いて提案された⁴⁾。それぞれ 6 ページ、3 ページであった。この標準様式案の名称は第 23 回年次会合では Country Disability Report (国別障害者報告) と呼ばれた。

この国別障害者報告は、年次会合のたびに回収される「Country Report カントリー・レポート」とは異なることには注意が必要である。従来通り、カントリー・レポートは毎年、年次会合の前に、様式を少しずつ変更

して、エクセルでの提出が別に求められている。2023年のカントリー・レポートはエクセル7シート、合計8問から構成された。

2023年の国別障害者報告案は、障害の定義、調査方法のほかに、5項目（①年齢階層別の障害発生率、②性別・障害種別による障害発生率、③障害者と非障害者の間の教育歴の差、④世帯所得（または貧困率）の差、⑤雇用率の差）であった。障害者と非障害者の差は上記の必須項目と自由項目から構成することが提案された。自由項目は各国の状況に合わせた図表を選択する。

例えば、第22回年次会合で提案された健診受診率、ワクチン接種率は自由項目に分類される。第23回年次会合の前に集められたカントリー・レポートでは、就学、雇用、世帯収入の他に、健康保険と情報通信技術について障害の有無を比較できる調査があるかが質問されていたことから、健康保険と情報通信技術については収集している国数が十分でなかったために割愛されたと推測される。逆に、多くの国で比較可能な項目が増えれば、必須項目が増える可能性はありと考えられる。

事務局からはGlobal Disability Summit（2025.4.2-3、ベルリン）に国別障害者報告書を集めることができれば特別セッションを設けられることが提案された。そのためにも、年齢構成が異なる国同士の比較のために年齢調整方法が提示された⁶⁾。

2. 地域グループでの意見交換

(1) グループ分け

Zoom会議となった2020年から、年次会合中に地域及び言語による地域グループでの意見交換が行われている。これは、対面会

議の場合は休憩時間が長く、その間に多様な情報交換・意見交換が行われていたことを補う目的であると説明された。

2023年には、2022年と同じ6グループに分かれて、事務局が設定した項目について意見交換し、翌日に各グループの代表者から意見が紹介された。

① カサブランカ・グループ：中東及び北アフリカのアラビア語圏の国（MENA ESCWA 地域）

② ブラザビル・グループ：フランス語圏の西部/中央アフリカ諸国。マリ、ブルキナファソ、ギニア、ナイジェリア、コンゴが参加した。

③ 南アフリカ/東アフリカ・グループ：英語圏の国。

④ ブエノスアイレス・グループ：ラテンアメリカのスペイン語圏の国。アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ドミニカの他、国際組織としてIADB-BID（Inter-American Development Bank）とECLAC-CEPAL（The Economic Commission for Latin America and the Caribbean（ECLAC）-the Spanish acronym（CEPAL））が参加した。

⑤ カトマンズ・グループ：南アジア及び東アジアの国々。ネパール、インド、モルジブ、マレーシア、香港、タイが参加した。

⑥ その他：非加盟国及びパートナー

(2) 議論された課題

事務局から提示された話題は下の通りであった。

① 事務局が作成した国別障害者報告

Country Disability Report の様式について

- a. 2024 年半ばまでに、この様式を作成できそうな国はどれくらいあるか?
- b. 地域または地域内の各国のレポート作成を支援するために事務局からの技術支援が必要か?
- c. どのような種類の支援が最も役立つか? 地域向けのオンライン・トレーニング? 国単位の技術支援? どのような形式か? 必要な研修の内容は?

② 2022 年 (前回) の WG 年次会議以降の主な活動は何か?

③ 来年の活動計画

- a. 他の WG 参加国や事務局から支援を得たいこと。
- b. WG 事務局は、地域グループワーク計画で何が機能し何が機能しなかったかを共有するために、すべての地域グループの議長が集まる会議を調整すべきか?

3. 会議形式

COVID-19 流行により、第 20 回年次会合から Zoom 会議となった。21 回、22 回では、発表中に回線が途切れることがあったが、23 回ではなかった。

事務局担当者及び途上国からの参加者の旅費負担がなくなったために、Zoom 会議では、スペイン語とフランス語同時通訳が配置された。通訳を活用して、スペイン語またはフランス語で発表され、母国語で質疑が行われた。従来のように、早口の英語による発表を制止することはなくなり、多くの参加者から多様な意見が出たのは、前回と同様であった。

Zoom 会議は参加が簡便になったために、

参加者も増えたが (各日 90 名前後)、欠点もあった。個別の対話が減ったことは 22 回年次大会後の報告でも触れたが、質疑はさらに少なくなり、チャットへの書き込み者を司会者が指名することで意見交換が進んだ。

すでに記したように、従来は長い休憩時間に、発表者への質疑だけでなく、参加国同士の意見交換が活発に行われた。

4. 投票機能

第 22 回年次会合以降、会期中に何回か投票機能が使われた。最終日 (3 日目) の最後に行われた下の 3 つの投票では、国別障害者報告の作成に関する質問に対して肯定的な回答を得た。①国別障害者報告作成を実施できるか、②事務局は国別障害者報告を作成するために 1 回か 2 回の webinar を主催すべきか、③各国が国別障害者報告を作成し公表する際の課題について WG 事務局は専門家による支援を調整すべきか。

引用文献

- 1) 北村弥生, 江藤文夫. 国連国際障害統計に関するワシントン・グループ会議第 16 回会議までの成果. 厚生労働行政推進調査事業「身体障害者の認定基準の今後のあり方に関する研究」平成 26-28 年度総合研究報告書. 2017.
- 2) 江藤文夫. 障害統計のツール開発の国際動向 国連ワシントン・グループの活動を中心に. 厚労科研「障害認定の在り方に関する研究」平成 22-24 年度総合研究報告書. 2013.
- 3) 岩谷力, 今橋久美子, 北村弥生. 国連国際障害統計に関するワシントン・グルー

プ第 21 回及び第 22 回年次会合の概要.
厚生労働科学行政推進調査事業「現状の
障害認定基準の課題の整理ならびに次
期全国在宅障害児・者等実態調査の検討
のための調査研究」令和 4 年度総括・分
担研究報告書. 2023.

- 4) United Nations. Principles and
Recommendations for Population and
Housing Censuses Revision 2. 2008.
- 5) Altman, B. International
Measurement of Disability Purpose.
Method and Application. 88
Springer. 2016.
- 6) Washington Group on Disability
Statistics. Washington Group Best
Practices for Age-Adjustment of
Disability Data. 2023.